

八戸市総合計画策定委員会 第1回専門部会「生業づくり戦略部会」 議事概要

日 時：平成27年1月23日（金） 13：40～15：30

場 所：八戸グランドホテル2階 グランドホール

出席委員：6名

岡田委員（部会長）、武輪委員（副部会長）、八木委員、松田委員、澤藤委員、小野委員
（欠席2名：門前委員、青野委員）

事務局：

政策推進課（高橋主査・坂本主査）、農林畜産課（石村主幹）、農業経営振興センター（石丸副参事）、
水産事務所（佐藤主幹）、商工政策課（秋元参事）、産業振興課（下村副参事・三浦副参事）、
雇用支援対策課（巻主幹）、港湾河川課（磯島参事）
（株）ケー・シー・エス 東北支社 室谷

次 第：

- 1 開会
- 2 正副部会長の選任について
- 3 部会長・副部会長あいさつ
- 4 審議案件
審議1. 戦略ごとのプロジェクトの方向性について
- 5 その他
- 6 閉会

部会長・副部会長の選任：

- ・委員の互選により部会長に「岡田委員」、副部会長に「武輪委員」を選任。

審議案件に関する主な意見：

生業づくり戦略のプロジェクトの方向性について

①六次産業化プロジェクト（仮）

■現状・課題

- ・ブランド化を進めている八戸前沖さばのほかにも、多様な農水産品、それらを加工した食品、粉食文化（例：伝統食のみならず他地域に比べても美味しいパン）など、八戸には美味しいものが沢山ある。
- ・八戸の六次産業化は、大規模な取り組みがないため目立っていない。
- ・八戸はおいしいもの、良いものを生産しているが、それらが身近にあることが当たり前になっており、自ら発信できていない。
- ・良いものを外に売り出していくこと、地元で評判の良いものを売り出すことが、六次産業化に結びつく。
- ・下北ワインや甲府ワインの評判が良いように、南郷ワインも同様な売り出し方は可能と考えられる。
- ・ブイヤベースフェスタ、ワインフェスティバルのように企業、市民が連携したイベントで発信していくことは有効であり、企業参加、官民連携のきっかけとなっている。
- ・八戸前沖さばは、定期的イベントでPRしているとともに、東京、大阪でのアンテナショップで取り扱っている。

- ・八戸の産品は中身の良いものが多いが、パッケージのデザインに工夫がないなど、見せ方、売り方が下手なものも多く、デザインの工夫で商品価値を高めるなど、ソフト面の取り組みが必要であるが、中小企業としては、パッケージに予算を多く割けないという事情もある。

■施策イメージ（方向性）

- ・八戸市のおいしいものを、IT企業と連携してネット販売するなどIT技術を活用した情報発信や全国どこでも購入できる仕組みづくりが考えられる。
- ・六次産業化した商品をリストアップして、情報共有し、売れ筋ランキングなどの注目される工夫したプロモーションをしていくことが考えられる。
- ・地域商品のネットでの情報発信や販売を行うにあたっては、国内でも競合が厳しい状況にあり、ネットを使ったから売れるというものではないので、IT企業と生産者が一緒に取り組むことが必要である。
- ・南郷のワインなどおもしろい取り組みはあり、六次産業化では、働く人がわくわくするやり方が重要であり、若者がやってみたくなる仕事に仕立て上げると成功すると考えられる。

②企業誘致・起業促進・雇用創出プロジェクト（仮）

■現状・課題

- ・八戸は東京の人などに、東京から遠い、積雪が多いところと誤解され、良いイメージが認知されていない。
- ・港湾に企業が進出するためには、港湾の規模と工場等が立地するためのバックスペースが必要である。
- ・八戸の市民は実直であり、雇用した誘致企業の満足度は高い。
- ・IT関連産業に関しては、誘致企業が集積した結果、需要過多になっている。
- ・八戸市は八戸工大、八戸高専があることもあって、工業系の優秀な人材を輩出しているが、地元工業系企業でしっかりした企業、安心して定年まで働ける企業が少なく、地元企業に就職する人が少ない。一方、誘致企業には多数の応募がある。
- ・IT企業に就職したいなど、若者の労働に関する志向が変わってきている。一方、物流を担うトラックの運転手、船員等は就労希望が少なく、人材が不足している。
- ・魅力的な企業が地元であれば、学生の地元就職が進むほか、首都圏からも人材が戻ってくる。
- ・東京や仙台で暮らしてみたいと外に出たが、戻りたくても八戸に就職先がない。
- ・定年後に戻ってくる人はいるが、40～50代であり、できれば30代でのUIターンが望ましい。

■施策イメージ（方向性）

- ・八戸の良さを東京などに発信して地域イメージを向上させる必要がある。
- ・UIターンを明確に戦略に位置づけるべきである。
- ・人口流出に歯止めをかけること、出た人を戻すこと、外から引っ張ってくるのが重要である。
- ・ワーキングプアの問題や、最近話題となっている若者特有の様々な意識やライフスタイルも、若者の定住促進に向け参考となる。
- ・企業誘致とともに、地場産業が若者にとって夢のある仕事に変わっていくことも必要である。
- ・盛んな水産加工業の加工施設やインフラを農産加工や畜産加工など他産業に活用するなど、インフラの総合（相互）活用による六次産業化の連携が必要である。
- ・風土や飼料の面からも有望である畜産業を、3Kではない仕事場にしていけることが必要である。

- ・どのような産業があるのか、事業者や市民が業界を知ることが大切である。
- ・地元のマーケティングリサーチで、地元を知って活用の仕方を考えることが必要である。
- ・企業単体では困難なことは、行政が旗を振って、企業も応分の負担をしつつ連携して行うことが望ましい。

③物流拠点化プロジェクト（仮）

■現状・課題

- ・八戸は、港湾、空港、新幹線、高速道路があり、マーケットにも近いことから物流拠点としての資質は高い。
- ・八戸港は、漁港としては認知されてきたが、地方の商業港湾としてはトップクラスの規模・取扱量なのに知名度が低く強みを活かし切れていない。ニッケル鉱石の輸入は全国シェア 6 割、配合飼料の輸入は全国 3 位の取扱量を誇る。
- ・配合飼料の取扱が多いとともに、日本有数の畜産地帯であることから、更なる畜産業の発展が可能と考えられる。
- ・港湾を活かし、モーダルシフトにより大量輸送においては、航路を活用した物流に取り組むことは有効だが、国内航路の規制緩和や船会社の船員確保などの課題がある。
- ・環境問題の面からもモーダルシフトの可能性は高くなってきている。
- ・津軽海峡を北米－東アジア航路が通航し、釜山で仕分けしている。また、今後の可能性が検討されている北極海航路等地理的な条件として八戸港には可能性がある。

■施策イメージ（方向性）

- ・地域間競争の中、同じようなことをして勝つことは困難であり、先んじているものや強みを活かしていくことが必要。
- ・港湾機能の更なる強化を検討する。

【第 1 回専門部会結果概要】

- ・六次産業化については、豊富なおいしいもの、良質なものを、IT企業と生産者が連携したネット販売やイベント・アンテナショップでのPRなどで発信し、売り出していくことが重要であり、商品の見せ方、売り方の工夫で商品価値を高めることが必要である。また、若者がわくわくする職場づくり、ニーズに即した企業の立地促進により若者の雇用の場とする。
- ・企業誘致やUIJターンの促進のため、八戸の良さ、地域イメージを発信するとともに、地域産業のセンスアップや安定雇用を進めることが必要である。どのような産業があるのか、事業者や市民が業界を知ること大切であり、設備・インフラの相互利用などの企業間連携や企業単体では困難なことに対する行政支援も必要である。
- ・物流拠点化に向けて、風土や広域交通機能の集積、工業、畜産関連産業などの強みを活かした取り組みが必要である。